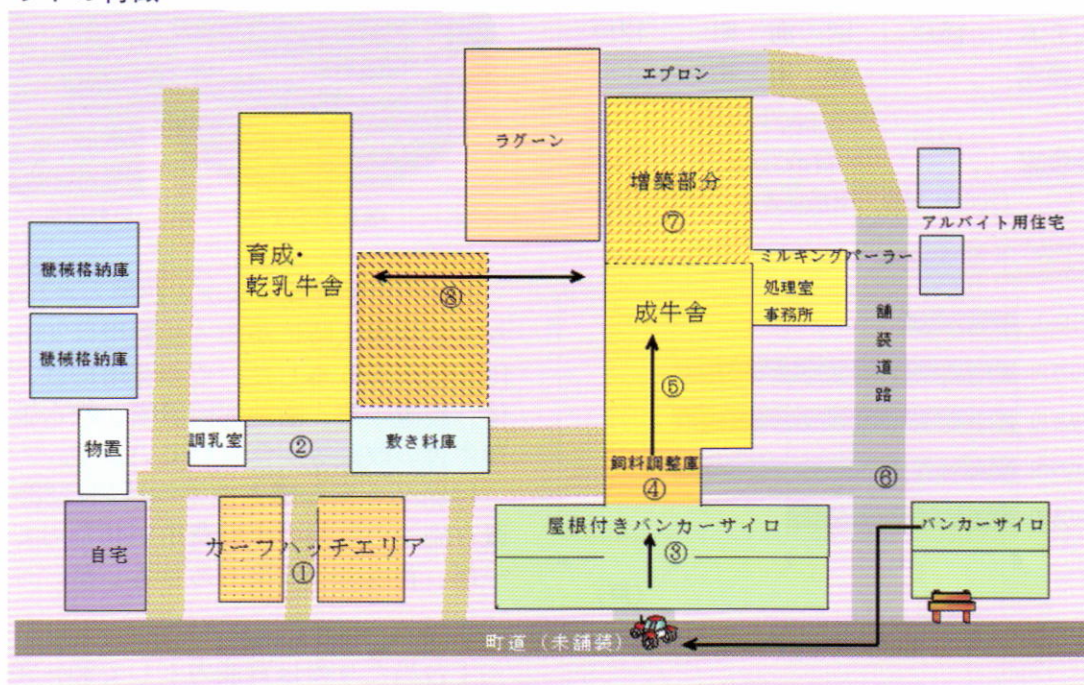


レイアウト例 | 農場 (別海町)

I 農場の経営概要

労働人数	経営主・経営主の妻・経営主の長男・アルバイト 計4名		
飼養頭数	経産牛154頭 育成牛140頭	乳検成績	9,760kg (H13年9月)
草地面積	82ha		
飼養形態	H2年よりフリーストール・ミルクングパーラー方式、TMR方式を導入		
成牛舎	成牛舎H元年建築 (97床)、H11年増築 (128床) 合計225床		
育成・乾乳牛舎	H7年建築 (フリーストール方式)		
経産牛増頭の経過	H元年約50頭 → H11年 (増築時) 127頭 → 現在154頭		

レイアウトの特徴



No.	特 徴
①	カーフハッチエリアが住宅と成牛舎の間にあり、ほ育牛の観察の機会が多くとれる。
②	カーフハッチエリアと育成・乾乳牛舎の距離が近く、育成牛の移動距離が短い。
③	屋根付きバンカーサイロは作業が天候に左右されない。特に冬季間の除雪が不要で省力的である。
④	飼料調整庫は広く、整理整頓されており、TMRミキサーとエサ押し用のスキットローダーが配置してある。屋根付きバンカーサイロと屋根続きである。
⑤	飼料調整から給餌までの一連の作業が短距離で可能である。
⑥	快適な舗装道路。
⑦	かつてのつなぎ牛舎は②付近にあったが、将来の規模拡大の展開を考えて現在の場所に建設した。H11年に牛舎を増築する際にはスムーズに拡大できた。
⑧	将来的にここにパドックを作って、分娩牛の出入りを直線的にしたい。
その他	育成・乾乳牛舎、成牛舎ともに給餌作業と除糞作業が直線的にでき、効率がよい。

実施農家の声

- 作業効率を考慮して、牛舎内は給餌作業と除糞作業が直線的にできるようにした。
- 将来の規模拡大の展開を考えて、他の施設がない広いスペースに成牛舎を新築した。
- つなぎ飼育とフリーストールでは、技術が全く変わるので事前によく検討し、フリーストールに移行してからも情報収集を怠らず、先取りの技術で生産性向上を目指している。

ほ育作業の効率化（自動ほ乳システム）

ほ育作業の省力化のために、最近自動ほ乳システムの導入農家が増えてきました。この背景として、規模拡大に伴い、ほ育作業における労働軽減が必要となったことや、機械が比較的安価に導入することが出来たことがあります。自動ほ乳システム導入のメリットと留意点を紹介します。

現況

自動ほ乳システム導入農家	15戸	内訳 別海町 根室市	12戸 3戸
うち調査農家	12戸	平均成牛頭数 〃育成牛頭数	114頭 73頭

(2001年10月 南根室普及センター調べ)

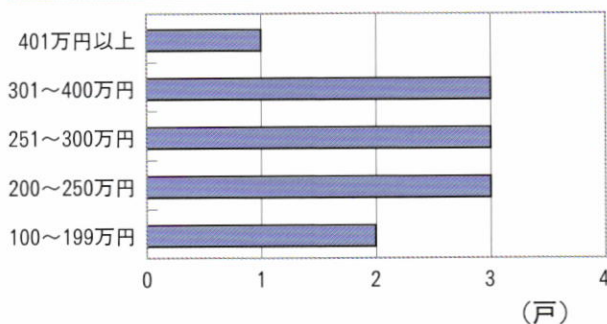


哺乳中の子牛



自動ほ乳システム

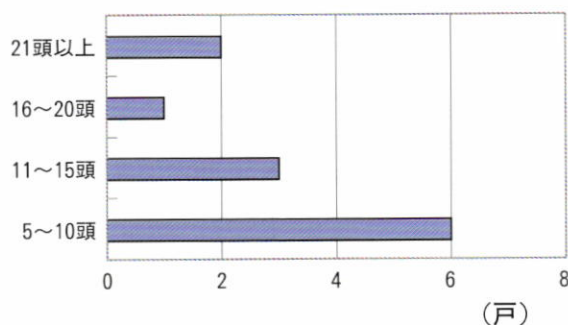
システム導入費用



6社の自動ほ乳システムが導入されており、システム導入時にかかった費用は200~400万円と幅がありました。この費用には、機械本体、設置工事、断熱部屋設備、飲水施設、既存牛舎の改築等が含まれています。

付属品を含む購入の平均費用は235万円、既存施設の改築の平均費用が45万円でした。一部、育成舎の新築もありました。

1台当たりほ育頭数

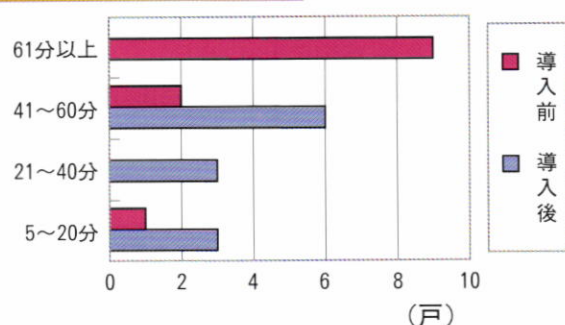


1台当たりのほ育能力として20~30頭が可能とされています。

1台当たりのほ育頭数平均は、14.5頭で、67%が1グループでは育していました。

導入前のほ育頭数は、11.6頭では乳システム導入後3頭増加しています。導入年が平成11年以前が2戸、平成12年以降が10戸と導入してから短い期間にもかかわらず、増頭している農家が多くみられました。

1日当たり平均ほ育時間



ほ育頭数の差にもよりますが、導入農家のほ育にかかる労働時間は最大でも60分でした。

導入前のほ育施設は、カーフハッチが4戸、群飼い2戸、繋ぎ飼い・舎内ペン3戸でしたが、1日当たり平均労働時間を導入前と比較すると約1時間短縮できました。ほ乳作業は女性の担当が多く、ほ育頭数の多い農家ほど喜ばれていました。